

令和2年度 第3回小田原市社会教育委員会会議概要

- 1 日 時：令和2年（2020年）11月25日（水）10：00～11：30
- 2 会 場：小田原市生涯学習センター本館 第2会議室
- 3 委 員：木村議長、笹井副議長、有賀委員、金子委員、倉澤委員、高須委員、平井委員、
深野委員
- 4 職 員：柳下教育長、石川文化部長、古矢文化部副部長、中村生涯学習課副課長、藤澤
生涯学習課副課長、八田生涯学習係長、林主事
（事務局）相澤主査

5 傍聴者：なし

6 概 要

1 教育長挨拶

柳下教育長が挨拶をした。

2 報告事項

(1) キャンパスおだわら事業の評価結果と現在の状況について

資料1及び参考資料に沿って中村副課長が報告をした。

【有賀委員】 キャンパスおだわら情報誌は現在発行されているのか。

【中村副課長】 現在は休止している。キャンパスおだわらホームページを改修した際に、入力された情報を抽出できるようにしたので、1月・2月の開催情報分の発行を今準備しているところである。

【深野委員】 公募型市民企画講座について、本日の資料にはその言葉は出てこないが、その事業は継続している、学習講座に含まれているという理解でよいか。

【中村副課長】 講師の方からのこういう講座をしたいという提案と、こちらからこういう講座を開いて欲しいというケースと、どちらのパターンについても現在も継続している。

【深野委員】 自分が講座を開催した際は、生涯学習推進員の会の方とコミュニケーションが取れており、それで、こういう講座をやってくれないかという話があり、講座の企画が進んだことがあった。公募型について、市民の提案を待つだけではなく、積極的に、この人にこういう話を聞きたいとか、今こういうことが話題にないっている等含め、お互いに提案や働きかけをする。市も働きかけるし、講師からも講座の機会が欲しいと働きかける、両方からのコミュニケーションが必要という気がする。市民主体の意図はわかるが、そういう場や関係が作れるようにしていく必要がある。特に公

募型市民企画講座については、なかなか市民の方から積極的に出していくという事はあまりない。ぜひコミュニケーションができるような機会作りを考えていただきたい。

- 【中村副課長】 今まで NPO 法人で連続講座等企画してもらっていたが、どうしても毎回同じキャンパス講師に偏った講座になりがちだった。先ほど紹介したが、今回キャンパス講師の研修会を開く。そういったものを活用しながら、できればキャンパス講師の方から、こういった講座をやりたいという意思表示をしてもらえればと思う。地区公民館との連携という面では、今年度はコロナの影響で地区公民館講座を実施できていないのだが、地区の要望等を聞きながら、そういったところでこちらから提案しながら実施できればと考えている。
- 【深野委員】 キャンパス講師の講座について、市で整理しないとイケないくらい、積極的にやりたいという多くの応募があるのか。
- 【中村副課長】 公募型については、それほど多くはない。あとは、キャンパス講師が自主的に講座を開くので、キャンパスおだわらホームページに載せて欲しいとチラシを持ってくるパターンの方が多い。
- 【深野委員】 それはあくまでも自分たちで、地区の公民館等の会場を使って講座を開くということでしょうか。
- 【中村副課長】 そうである。現在は地区公民館というよりも、けやきやマロニエ、UMECO などの既存の大きな施設での開催が中心になっている。
- 【金子委員】 キャンパス講師を活用する地区公民館講座であるが、よいアイデアだと思う。公民館活動の中で、学習ということはなかなかできていないのが実情である。市の総合計画等でもいろいろな目標があるが、公民館での学習で、何をやったらよいかかわからない。お金はかかるかもしれないが、1件でも2件でもやったほうがよい。

3 協議事項

(1) 地区公民館について

資料2から6に沿って藤澤副課長から説明をした。

金子委員から地区公民館の現状について説明した。

笹井副委員長から長野県松本市の公民館事例について説明した。

- 【木村議長】 ただいま、金子委員と笹井副委員長から、それぞれ小田原市の地区公民館と、松本市の町内公民館についてお話を伺った。今後の具体的な研究テーマを絞るにあたり、残りの時間を使って、みなさんが考える課題や、こんなデータが知りたいという要望があればお聞かせ願いたい。今期は諮問答申という形ではなく、我々が調査研究をし、自由にまとめていくという

形を取りたいと思うので、自分の考えを公表していただければと思う。

【有賀委員】 先ほど金子委員から、地区公民館では子ども向けの活動が少ないという話があった。私は現在豊川地区の子育て支援グループ「だるまっこ」の活動に、主任児童委員として関わっている。だるまっこは豊川市民集会施設を活動の拠点として、未就園児のお子さんを対象に、母親が中心になって活動をしている。このコロナ禍でなかなか活動を始められなかったが、7月に2回、場所を提供する形で行われて、9月からは計画的に毎月2回行っている。スタッフを含め30名くらいの参加がある。前は保健師による身体測定や誕生日会、ゲーム大会などの活動をした。スタッフの中には、民生委員やボランティアもおり、小さなお子さんと楽しい時間を過ごしていると感じている。こういう状況ではあるが、感染対策をしっかりとこれからも継続していきたいと思う。また、先日豊川小の学校運営協議会に出席し、学校木の空間づくり事業の一部を見せていただいた。その一つに、くるみルームというものがあった。これは、地域コミュニティと共有する教室のことである。豊川小学校の学校だよりも、校長先生から、くるみルームを地域の人の活動の場所の一つとして活用してもらうことは、学校施設が地域コミュニティの核としての役割を果たすことにつながるのではないかというコメントがあった。地域の方の交流の場としてくるみルームを末永く使ってもらえるとありがたいというお話があった。くるみルームという名前は「桑原のく」「成田のる」「飯泉のみ」を合わせて名付けたそうである。積極的に地域の方が入って活動できたらいいと思う。

【木村議長】 小田原市は合併を繰り返して大きくなってきたので、当時の村役場だった各施設がそのまま地域に残っている。それが老朽化で使えなくなってきた。かといって市も新しい施設を建てるお金もないので、セキュリティの問題もあり難しいところもあるのだが、学校の空き教室を使わせてもらうという話を、前教育長のころから進めていた。子どもが減らないと教室が空かず、それがどのくらいの期間がかかるのか予想ができないが、コミュニティの拠点として小学校の空き教室等を利用していこうということをしている。なるべくお金をかけずに地域の人が集まれる場所を作っていこうということを検討しながらやっているところである。

【深野委員】 私の住んでいるのは桜井地区の寺下であるが、私のところの施設は公民館ではなく、集会所と呼んでいる。老朽化が最大の問題である。自分たちでペンキを塗ったり、修繕をしているのだが、建物が古いので、地震が来たら地区で最初に倒れる建物だと思っている。建て直しができれば一番よいので、そのためのお金を貯めてはいるが、とても足りない。結局建て直しを先送りにするが、いつまで先送りするのか。個人的には、地震で倒

れるまで先送りするのではないかと考えている。建て直しが一番大きな問題。どこで踏ん切りをつけて建て直すのか。もう一つの問題は、地区公民館の土地は、地区の篤志家が提供してくれているということ。いざ建て直すという時に、子孫の方がそのまま貸してくれるかという、何の確約もない。地区公民館には土地の問題もある。自治会所有の土地であればよいが、借地は気になる。建て替えると言っても、土地問題を解決しないと、地区公民館は建て替えられないのではないかと。スペース的にも足りるのか。防災の面でいうと、私のところの公民館は酒匂川のすぐ脇だから、決壊したら水浸しになる地区である。水害と地震が一番可能性があり、地区公民館が避難所になりえないという実態がある。私も仙台で震災を体験している。その話を何か所かの公民館でしたことがある。防災に対してはみなさん関心が高いので、人がたくさん集まって聞いていただけた。そこが防災の拠点になればよいのだが、拠点になれないという矛盾を一番強く感じる。

【木村議長】 地区公民館を建て替えるときには法人化しないといけない。それができないところは、建て替えができない。避難所については、足柄平野にある地区公民館は水害の場合には避難場所にはなりえない。市としても防災についてはいろいろと考えてやっているのだから、また機会があればお話ししたい。

【深野委員】 同じ桜井地区なのに、東栢山と西栢山は新しくて立派である。そういうところがどうしたのか参考にして、自分の地区の集会所も何とかする必要はある。

【高須委員】 児童相談所は虐待の相談がすごく多いのだが、それには地域のあり方がすごく影響していると思っている。都会型の虐待など、地域によって出方が違う。小田原市の場合は、都会型ではあるが、まだ地域のつながりが残っている。地域の中で地区公民館をどうしていくのかという意味では、地域がしっかりしていると虐待が少なくなってくるので、とても期待したい。私はここから遠い市に住んでいるのだが、自分ほどのくらい公民館を使っているかという、子どもが小さいときに1回か2回卓球をしに行ったくらいである。現在は、防災委員などで行くくらいである。逆に自分の住んでいる地域ではないところの公民館に行くことがある。それは趣味の集まりの時に、それができる公民館に行った。そういう意味では、地域に住んでいる人が何をしたいと思っているかがとても大事。それを受けて入れてくれる公民館であれば行くのではないかと。もし自分の住んでいる地区の近くに自分の趣味を受け入れてくれる公民館があればきっとそこに行っていたのだろうと思う。そういう住民のニーズが重要ではないか。この間他の町の会議に出たときに、地域住民の代表とし

て出ている方がいて、子育ての話をしている際に、ここは子育てしにくいとおっしゃっていた。何がネックといえ、ここは通信が入らないことだという。ネット環境がないから、子どもが学校に行かないで家でネットを使ってしまうと、自分のネットが使えず、仕事にならない。そうであれば、みんなここに越して来たいって思わないですよ。住民が越してくるか来ないかという話がしたいわけではなく、そこに住んでいる住民でないといけない何かがあるのではないか。公民館も地区でいろいろ違いがあるのはわかるが、すごく使われているところもあれば、そうでないところもある。先ほどの話でもあったように収入の件も関係してくるのかもしれないが、どういうものが欲しいのか地域住民に直接聞いてみたいと、話を聞いていて思った。

【平井委員】 市が考える公民館の課題はよくわかった。128ある公民館の大半は集会所の役割なので、学習の場という考えには及ばないと思う。自分の自治会の公民館も古い建物で、一昨年耐震工事をした。市の補助は受けずに、自治会のお金で行った。地区公民館は地域の住民には浸透していない気がしている。私も自治会の役員をやらなければ公民館に行かなかった。今回も公民館長と自治会役員を兼任している状態。公民館専任にはできていない。地区公民館は、自治会の集会所という役割を超えないと思っているので、それ以上期待されても困ってしまう。

【倉澤委員】 私は学校教育関係者なので、今までの話で関係しているところが多い。地区公民館のハード面ソフト面それぞれの課題について、ハード面では、私の勤務する酒匂小学校でも、余裕教室を活用してそこで公民館的な活動が行われている。市民プラザであったり、地域交流室という場所を用意しており、そこでの活動のためにコピー機を入れたり、床にカーペットを敷いたりなどの環境整備をして、自治会を中心に準備をしているところである。学校のほうでも、子どもたちだけではなく地域住民の方にも学校に来ていただいて、地域の中での学校、地域とともにある学校というところが、今後進められると思う。ソフト面でいえば、市の方で学校に対してアウトリーチ事業をやっている。芸術家の方たちを学校に呼んで、体育館やオープンスペースで子どもたちが芸術鑑賞をできる。楽器の演奏やダンス、太鼓の演奏を子どもたちが身近に見ることができ、とてもいいなと思って感謝している。地区公民館講座にも、アウトリーチ的な要素を盛り込めて行けるのではないかと。各地区の公民館活動の中で、学習的なものが少ないということなので、生涯学習センターなどの大きなところで講座を開いて、市民に来てくださいということよりは、地区公民館を会場に、できれば市で防災であったりパソコンであったり、環境、または食育健康といった福祉的なものなど、基本的なメニューやプ

プログラムを用意して、それらのメニューの中からテーマを選んで、少人数でも展開できる形で講座をやっていただくことが、今後の社会教育・生涯学習の推進につながっていくのではないかと考えています。そうした方が、自治会の役員の負担も減る。自治会役員が公民館のための全ての活動をするのは大変なので、そういったところは行政で担って進めるのがよいのではないかと考えています。

- 【木村議長】 26の連合会で地域コミュニティ組織が出来上がり、子ども食堂など、公民館を使っているいろんなことを各地区で行っているの、そういうものの一つとして公民館を使うのもよい。けやきやマロニエは、そこまで行くのが大変だから行かないという高齢者もいるだろうし、みなさんが集まれる場所として、地区の公民館を利用しながら、社会教育・生涯学習をやっていくということで、その辺りをテーマとして次回は切り込んでいきたいと考えている。金子委員から、地区公民館でなかなか学習はできないというお話があった。その辺りを切り口にして、地区公民館を生涯学習の場にしていくには、こういう手があるのではないかとみんなで考えていきたいと考えている。その他事務局から連絡等願います。

(古矢副部長から、当日卓上配布チラシについて説明)

(事務局から、次回会議は2月を予定している旨等連絡)

- 【木村議長】 それでは、本日の社会教育委員会会議はこれを持ちまして閉会とさせていただきます。